

## 原 著

# 佐渡地区のCKD啓発のための取り組み状況について

新潟県厚生連佐渡総合病院、薬剤部：薬剤師

ひきの るな いけだ こうすけ つるま なおき  
引野 瑠奈、池田 考介、藺間 尚樹

目的：慢性腎臓病（chronic kidney disease：以下、CKD）は新たな国民病といわれている。佐渡地区ではCKD対策を開始し、対象患者へCKDシールの配布を開始した。佐渡総合病院薬剤部では、腎機能低下患者に対して注意が必要な薬剤の投与量評価を行った。今回、CKDシールの配布状況と当院薬剤部における投与量評価の業務負担について調査したので報告する。

結果：2021年10月時点において、CKDシールは、当院腎臓内科、診療所では約360枚、保険薬局では17枚配布した。投与量評価の業務負担は、許容範囲という回答が多数であった。

結論：CKDシールの配布と投与量評価共に継続可能な業務を構築できていると考える。

キーワード：慢性腎臓病、お薬手帳、投与量評価

が45 mL/min/1.73 m<sup>2</sup>未満の患者にCKDシール<sup>※</sup>を配布した。CKDシールは対象患者のお薬手帳の表紙に貼付し、医療機関を受診するときはお薬手帳を提示するよう指導した。

※CKDシール：所有する患者自身がCKD患者であることを他者に示すものである。このシールを提示することにより医療者側からCKD患者に対する適切な指導や情報提供が得られやすくなる。また、患者が複数の医療機関にかかっている場合は、このシールを用いて情報を共有できる。

## 2. 腎機能低下患者に対する投与量評価手順

腎機能低下患者が内服する上で投与量に特に注意すべき薬剤のうち、S-1、カペシタピン、バラシクロビル、ファムシクロビルの腎機能別投与量評価を行った。以下に投与量評価方法の手順を示す。

### S-1、カペシタピンの投与量評価

- ・薬剤専用のアプリケーションを用いて基準投与量、減量基準を確認する。
- ・実際に処方されている投与量が適正であるか確認する。投与量が過量であると考えられる場合には医師に疑義照会を行い、適正な投与量を提案する。

### バラシクロビル、ファムシクロビルの投与量評価

- ・患者の性別、年齢、体重、血清クレアチニン値より推定クレアチンクリアランスを算出する。
- ・医師のカルテ記録より診断名を確認する。
- ・腎機能別薬剤投与量POCKETBOOK（出版じほう）を用いて投与量が適正であるか確認する。過量投与の場合は医師に疑義照会を行い適正な投与量を提案する。

## 3. 対象薬剤の投与量評価を行う際の薬剤師の業務負担について

当院薬剤師にアンケート調査を行った。評価項目は、

1. 大いに負担である。
2. 多少負担であるが許容範囲。
3. 負担は感じない。の3項目とした。

## 結 果

### 1. CKDシールの配布枚数

2021年10月時点において、当院腎臓内科、診療所では約360枚、保険薬局では17枚配布した。当院薬剤部は6枚配布した。

### 2. 対象薬剤の投与量評価を行う際の薬剤師の業務負担について

当院薬剤師14名より回答を得られた。

## 緒 言

現在、成人の8人に1人が慢性腎臓病（chronic kidney disease：以下、CKD）患者と推測され、CKDは新たな国民病といわれている(1)。CKD患者は増加傾向であり、その患者に腎機能を考慮した医療を提供することが重要となる。佐渡地区では島民の高齢化が進んでおり、それに伴いCKD患者の割合も増加傾向にあると考える。これまでも各職種・団体がCKDへの対策を進めていたが、職種間・施設間でより密に連携してCKD対策に取り組んでいく必要性が高まったことを背景に、佐渡地区における医療機関、保険薬局、佐渡市、保健所等様々な施設・職種が参加してCKD対策を議論する佐渡地区CKD対策会議が発足し対象患者へはCKDシールを配布するなど取り組みを開始した。佐渡地区CKD対策会議発足前より佐渡総合病院（以下、当院）薬剤部では、腎機能低下患者に対して注意が必要な薬剤の投与量評価を行ってきた。

一方、CKD啓発のための取り組みは一時的な介入調査ではなく継続して行うことが重要であると考えられる。継続して行うには我々医療従事者に過度な負担とならないよう業務を構築する必要があると考える。

今回、CKDシールの配布状況と当院薬剤部における投与量評価の業務負担について調査したので報告する。

## 対 象 と 方 法

### 1. CKDシールの配布方法について

当院腎臓内科、島内の診療所、保険薬局等でeGFR

S-1、カペシタビンの腎機能別投与量評価について、「大いに負担である」：1名、「多少負担であるが許容範囲」：11名、「負担は感じない」：2名という結果となった(図1)。

バラシクロビル、ファムシクロビルの腎機能別投与量評価について、「大いに負担である」：0名、「多少負担であるが許容範囲」：10名、「負担は感じない」：4名という結果になった(図2)。

考 察

CKDシールの配布状況について、当院腎臓内科をはじめ診療所や保険薬局等の多施設で多くの枚数が配布されていた。これにより島内の多くの医療機関がこの取り組みに参加していることが分かった。また、お薬手帳は使用していくうちに切り替えが必要となる。その場合は主に保険薬局、当院薬剤部にてお薬手帳を更新してCKDシールと共にお渡ししている。保険薬局と当院薬剤部でも一定数シールを発行していることからCKD患者を継続的にフォローできる体制ができていると考える。

当院薬剤部での対象薬剤(S-1、カペシタビン、バラシクロビル、ファムシクロビル)の腎機能別投与量評価を行う際の薬剤師の業務負担について、今後も継続して行えることが分かった。

今後はお薬手帳やCKDシールを活用して今まで以上に施設間の連携を強化し、腎機能低下患者への安全かつ適正な薬剤管理を行っていく必要があると考える。当院薬剤部では、対象薬剤を適宜拡大して行きたいと考える。

文 献

- 1. 日本腎臓学会編. CKD診療ガイド2012. 東京:

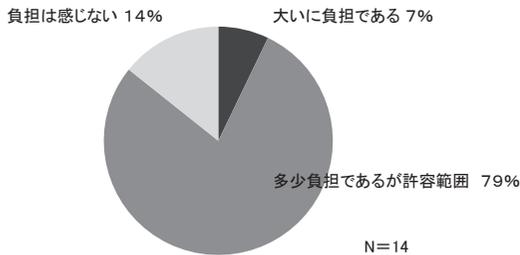


図1. S-1、カペシタビンの投与量評価の業務負担

東京医学社；2012.

英 文 抄 録

Original article

Status of CKD Awareness Efforts in the Sado Area

Department of Pharmacy, Niigata Kouseiren Sado General Hospital; Pharmacist

Runa Hikino, Kousuke Ikeda, Naoki Tsuruma

Objective : Chronic kidney disease [CKD] is one of the diseases affecting the entire nation.

Sado city has started taking prevention and control measures of CKD and distributing CKD stickers to the target patients, and pharmacists in our hospital determined the appropriate dose of medication to the patients with decrease in kidney function.

Then we investigated the number of CKD stickers which had been distributed and conducted a survey of the pharmacists workload on CKD patients.

Results : As of October 2021, about 360 stickers have been distributed at the department of internal medicine in our hospital, clinics and 17 stickers at pharmacies in Sado city.

Most pharmacists answered that they didn't feel burdens on their work on CKD patients.

Conclusions : We have built a sustainable system both on sticker distribution and the pharmacists' works on CKD patients.

Key words : chronic kidney disease, drug profile book, dosage assessment

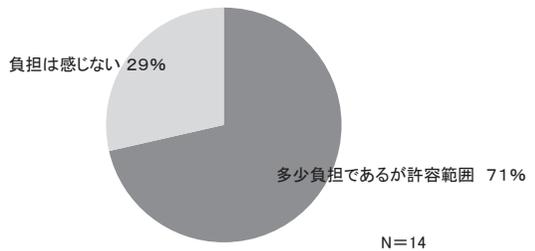


図2. バラシクロビル、ファムシクロビルの投与量評価の業務負担